ふかまちのまど

第一四〇号　〇六年一月一日
発行元　深町町内会連合会
連絡所　☎六三一三八八二

新春のご挨拶

町内会連合会
会長　高崎　修

新年明けましておめでとうございます。

町内の皆様方も夢多き佳き年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素は町内会や町内会連合会の活動にご協力ご支援を頂き深く感謝して居ります。

昨年は、町内会連合会の四大行事である町民運動会・盆行事・敬老会・市民体育大会を始め各行事に、町民多数の参加を得て、無事に実施することが出来ました。本年も各行事に積極的に多数参加頂きますようお願い致します。

多数の人が出会い、話し合うことによって連帯感が生まれ、その輪が段々と大きくなって、町内全体に拡がって行くことを願っています。

近年、子供や老人を標的とした犯罪が多発したり、高齢化、交通安全、田畑の荒廃等々の課題も有りますが、深町民の連帯を高めることによって対応することが必要と考えます。

そのためには、

○町内会連合会は勿論のこと、町内各種団体の活動の活性化

○趣味やスポーツ等同好の士によるグループ活動

○郷土芸能の保存活動

○高齢者対象の健康維持や介助活動

○世代間、産業間の交流活動等の取り組みによって、町民のつながりが高まり、リーダーの養成にもつながると考えます。

町民の皆様方が今後希望をもって安心して楽しく暮らせる町となるよう、微力ながら努力したいと思っています。

町民の皆様のご協力よろしくお願いいたします。

▲▲

深小だより

深小学校長　籔本　幸子

あけましておめでとうございます。本年も深小学校・幼稚園をよろしくお願いいたします。

昨年は子どもたちの安全が問題となった年でした。深小学校でも児童への指導とともに登校下校の安全に取り組んでいます。登校は集団登校、下校は低学年については教職員が見守り、高学年は集団で下校させています。

しかし、子どもたちの安全のためには地域の皆さんのご協力が欠かせません。そこで、お願いがあります。

・下校のころ、都合がつけば外に出て子どもたちに声をかけてやってください。（日によって違いますが、三時半から四時半くらいです。）

・地域で不審者等の情報があれば学校へお知らせください。

子どもたちにも挨拶をするように指導をしています。日頃からの挨拶が犯罪を防ぐと思います。よろしくお願いいたします。

今月二十二日（日）には新春ふれあい広場を予定しています。餅つき・とんど・バザーで楽しいときを過ごしたいと思います。おそろいで深小学校へおいでください。お待ちしています。

▲▲

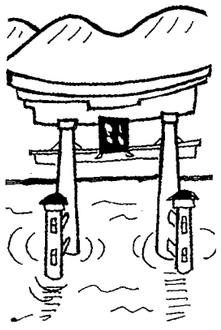
中組町内会だより

中組町内会親睦旅行（十一月二十日）

中組町内会
文化部長　岡本　義弘

九月末の役員会に於いて、秋の親睦旅行は文化部主体に取り組み、各役員協力で、広島市植物公園、厳島神社、宮島水族館と決定。参加人員一〇〇名を予定し、バス三台を手配、参加者を募集しました。

十月中旬に、一四三名の参加申し込みが有り、バス三台の乗車割り当て、各責任者及び準備等の決定を行いました。



十一月二十日（日）は午前八時に高崎町内会長外一三八名で出発。広島市植物公園を経て、日本三景、世界文化遺産の宮島町を一四〇〇年の歴史を感じながら、晴天に恵まれた中散策しました。又、紅葉がすばらしく、人出が多くて、大混雑いたしました。一日楽しく有意義に過ごし、午後六時前に全員無事帰着しました。

各役員、参加者全員の協力が有り、今後の中組町内会発展に向けて、良き親睦旅行でありました。又、今後とも中組町内会各行事に町民の皆様の多数参加、ご協力よろしくお願いいたします。

最後に、芸陽バスの皆様にご協力いただき無事終了出来ましたことをお伝えいたします。

▲▲

子どもを守って！

中組　南峠　岡村　由美

近頃、子供たちを狙った事件が多発しています。

中学生までは思えませんが、親としては他人事とはなく、こんなことが家でもこの夏にちょっとあるようなのどかな田舎でおきました。

わが家でもこの夏にちょっと思うような事件がありました。

4年生のソフトボールの練習に行ってたこころ、息子が迎えに帰ってくるのが倒れ、歩いて自転車で、周りには姿無くロードバイクに散乱し、グ・・・携帯電話・・・

六年間の記録（三）

下組　小林　徳蔵

第二章　平成二年

5　深型、町内組織の盲点

前項で述べたように高等学校第二グランド造成への関心は各町内会によって高いところとそうでない地区と差がありました。情報が足りなかったので仕方のないことであったのです。

当面の急務は、深全域を統括する仕組みを立ち上げ正確な情報を全戸へ向けて発信することでした。

ところが、事は筋書き通りには進みませんでした。町内の関心は専ら内向きになっていました。盆の行事は是非町内会が主宰すべきであるという議論が激しくなっていたのです。

外部（この場合山中学園）からみれば、町内会執行部を交渉の窓口として体制を整えたところと関心の低い地域と混在する有り様は異常に思えた筈です。

谷間（たにあい）の狭い深村に伝わる深型町内自治の仕組みは、地域外の人の目にはともすれば三町内会不統一という印象を与えかねないのです。

深の誇りのためにも何とか改めたいことでした。

6　盆行事

深には、昔から盆には盆踊り太鼓踊り他一連の盆の催しが村民総出で行われていたそうです。

戦時中、戦後、この習慣は途絶えていましたが、昭和五十九年頃深町民会館館長の努力で盆行事が復活しました。以降、毎年八月十五日に町民会館主宰の盆行事が続いてきました。

回を重ねていくうち、町内会も力をつけて「これは町内会が主宰すべきものだ」という意識が高まってきました。

従来どおりでよいと思う者と新旧二つの考えがこの年表面化して甲論乙駁（こうろんおつばく）、議論は熱くぶっつかり合っていました。

結論を述べますと、この年からは、主宰を三町内会へ移すということに落ち着きました。

7　深町連絡会

盆の催しは盆行事実行委員会を組織し三町内会が主宰しました。

この時期は盆行事の他にも三町内会が緊密に連絡し合う必要がありました。折よく誰かが深町連絡会のことを思い出しました。

茶色に変色した紙に書かれた規約の文言を読んでみると昭和五一年九月二五日に出来ていたようです。三町内会長の連絡を目的としていましたが統括の機能はありませんでした。

みんなに忘れられていた深町連絡会もここにきてにわかに復活しました。

平成二年六月六日、深町連絡会だより一号を発行しました。全戸へ正確な情報を発信する広報の役目を担っての登場でした。

8「過疎化」の衝撃

この年、深小学校児童数七一名、幼稚園児十二名、合計八三名がいました。

十月一日、国勢調査が実施されました。国勢調査の中間報告を探ってわかったのですが、深町の零歳児から五歳児までの合計は三四人だというのです。

現状のまま推移すると八年先では、深小学校児童数は三四人になるという意味です。三四人では小学校の維持そのものも危く過疎化は確実に進んでいます。

この動かし難い数字に、町民は多きな衝撃を受けました。

（次号へつづく）　▲▲

短歌・俳句・詩

中組　仲峠講　竹内博満

山々も谷も紅葉に染まる里
われ住む町は秋の香の満ち

年金を

削られ暮らせぬ年寄りに
姥捨（うばす）て山を公費で作れば

次々と船から下りる人の波
安芸の宮島沈みはせぬかと

（中組の慰安旅行、宮島は混雑していました。）　▲▲

戦時中の思い出（三）

中組　高崎　壽郎

衣について

昭和十七年（一九四二）の暮、ガダルカナルから我が軍が撤退を始めた頃から、戦況は不利になっていきました。

そして、年毎に物不足がひどくなり、着るものや食べるものなど生活に必要なものは、きめられた以外のものは買えない配給制度になり、今では考えられない程ほど不自由になりました。

服装は、男性はカーキ色の国民服と帽子、女性は防空頭巾にモンペ（ももひきに似た衣服）でした。

子どもも同じです。

家庭も子どもが多く、服はおさがりが普通。だから、末っ子は新しい服を着ることはありませんでした。

でも、誰も不満はいいませんでした。

もし、転んだり破れたら、つぎ当てをしてもらいました。

子ども会だより

ソフトボールの思い出と将来の夢

子ども会会長　小川和彦

町内の皆様には、平素より子ども会活動に格別のご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、今月は、ソフトボールチーム六年生の「ソフトボールの思い出と将来の夢」を紹介いたします。

○　植田　峻輔

ぼくのソフトボールでの一番の思い出は、ジャガーズ杯という大会で、最優秀選手賞というい賞をとれたことです。あのときは、すごく信じられなかったし、とてもうれしかったです。

「将来のゆめ」

高校野球で甲子園に出場することです。

○　河本　拓也

ぼくのソフトボールでの一番の思い出は、三原リーグで優秀賞という賞をとれたことです。

「夢」

プロバスケットプレーヤーになることです。

靴ははきません。靴屋さんにも売っていないのです。クラスへ時々三・四足ゴム靴の配給があり、くじ引き。くじにはずれると残念がったものです。

履物は「わらぞうり」です。

子どもはみんな、その作り方を年寄りから教わりました。

三年生の時、学校で「ぞうり作り競争」があり、私はふそろいのぞうりが出来たのを今でも覚えています。ゲートル（巻き脚絆）競争もありました。

雨や雪の日は、下駄をはいて学校へ行ったり遊んだりしました。

もちろん、ノーソックスでした。

ポケットへ手を入れていると、先生に叱られました。

先生は、「戦地の兵隊さんは、二〇度も三〇度もある土地でいらっしゃる。兵隊さんのために戦っておられる国のことを思いがまんしなさい」といわれ、ポケットを縫わされました。

冬は極寒の中国も戦場でした。

寒いというと、きまってやらされるのが、天突運動です。蛙が屈伸するような姿勢で天に向かって、ヨイシショ、ヨイショ、身体が温まるまでかけ声を出し、続けるのです。手の甲やホッペもよくまさつしました。

今の子どもは、身ぎれいにし鼻水など出していません。

当時の子どもは、そぐぐち（二本棒）が多く、袖口服の袖口でぬぐう子ども、袖口はピカピカ光っていました。

頭の髪も、ほとんどの家で刈ってもらうので、だんだんの虎刈りがはやったものです。

少し話が外れたようです。

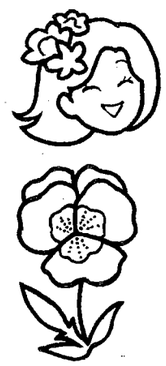
（次号へつづく）　▲▲

女性会だより

県道にパンジー

女性会ぶりてぃwomann　村井　治子

日増しに寒さがつのる季節になりました。町内の皆様にはご健勝のこととご推察申し上げます。



この度、女性会におきまして、中組、音石邸前の県道の三角土地にパンジーの花を植えてみました。春に皆様の目のやすらぎになればと思っております。

花を植えるのがお好きな方、ご一緒に如何ですか。又、ご家庭に増えすぎた球根や余った種がございましたら、ご協力下さいますようお願い致します。　▲▲

一回、中学へ行ったら何部に入ろうかなあ、野球部かサッカー部、すごくまよったときもありました。でも、一年からやっているサッカーの夢の方が強かったのでやっぱりしようらいの夢は、サッカー部です。ソフトボールで練習してきたことをいかして中学でも夢にむかってがんばります。

「ソフトボールで心に残ったこと」

中之町ビクトリーズと戦ったとき、ヒットを打ちました。打ったときは頭の中がまっ白でした。そして打って一〇秒くらいたったときに「やったぁ」と思いました。ぼくは、このことを一生わすれません。　▲▲

○　岸海甫

うれしかったことは、高須杯で、最優秀選手賞をもらったことです。

「夢」

プロ野球選手になること。

○　綱掛　翔

ぼくが、ソフトボールで一番楽しかったのが、高須杯で、三位になったことです。

ぼくの夢は、プロ野球選手になることです。

○　長尾　純志

将来の夢、サッカー選手

ぼくは、一年のころからサッカーがすきでした。そして三～五年までサッカーに入っていました。深町にきてサッカー部がなかったので、ソフトに入りました。ぼくは、ヒットも一本も打てないのにかんとくが、出してくれました。うれしかったです。